令和５年度　学校経営方針

１　2023年度重点事項の総括と今後の方向性

⑴　学習改善

小中学校共通の取組として、単元計画表やルーブリックを活用し、評価の在り方を追究した２年目。単元や授業の中で目指す学びの姿が子ども・教師双方にとって明確になることで、子供たちにとっては学びの羅針盤、教師にとっては授業改善の指針となっている。

今後も研究推進委員会を中心に仮説・検証等のＰＤＣＡを短いスパンで回し、継続、改善を図りながら、粟島浦小中学習改善・授業改善モデルを完成させていく。

⑵　「困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲・態度」「人間関係づくりの能力」等の社会性の育成

「合意形成」「意思決定」を意識した取組が浸透するとともに、活動過程の子供の頑張りを評価する振り返りが継続的に行われた。また、学級活動や各種行事において合意形成を図るための話合い活動が行われたことで、自尊感情や自己肯定感を含む社会性の育成が図られた。

よりよい集団づくりのために、自他のよさを理解し、自己の個性を発揮しながら、様々な他者とコミュニケーションを図り、協力し認め合って生活していく能力の育成を図っていく。

⑶　基礎体力の向上

担当教職員を中心としたチームとしての取組が展開された。また、子供たちが楽しく運動に取り組めるよう工夫したり、改善を加えたりしたことで、年間をとおして意欲的に運動する姿が見られた。

体育やのびのびタイムを中心に、継続的かつ意欲的に運動できる時間を確保したり、内容を工夫したりすることで、子供の一層の体力向上を図る。

⑷　未来を切り拓く力や郷土愛を育成

ヒト・モノや実社会とかかわり合う直接体験をとおして、豊かな人間性や価値観の形成が図られた。また、地域資源の活用を中核に据えることで、郷土の未来を考える礎づくりが図られた。

専門家及び異世代や他地域の方々との触れ合い並びに海を通じた学びや海洋教育を視点とする教科横断的な学びの推進から、深い学びの実現を図る。

２　学校教育の中核をなす３つの力

学校教育目標の実現を図るためには、以下の３つの力が必要である。この３つの力が結集し、相互に向上・発展させ、協働していけば、学校教育の充実が図られ、教育目標の実現に至る。

教師の力	子供の力	地域の力
・多様性のある授業力 ・人権感覚を兼ね備えた実践的指導力 ・教育の専門家としての確かな技量 ・子ども理解力 ・コミュニケーション能力	・思考力・判断力・表現力 ・課題解決能力 ・人間関係づくり能力 ・社会適応能力 ・コミュニケーション能力 ・人間力	・地域力※ ※多様な主体が連携して身近な課題を解決し、地域の価値を高める力 ・地域に根ざした教育力 ・地域ブランド力※ ※地域の特産品や地域でつくられた加工品、観光名所などが持つ価値・評価

3　ミッション（社会的な使命・存在意義）

⑴　安全で安心な学校づくりを推進する。

ア　個を見取る、集団を見取る生徒指導体制の充実
イ　いじめの未然防止、早期発見、即時対応に向けた取組の充実
ウ　自らの命を守る意識を育てる防災教育の推進
エ　学校教育施設・設備の充実

⑵　学校教育目標を達成する。

ア　知・徳・体のバランスのとれた育成
イ　言語能力やコミュニケーション能力とともに情報活用能力の育成
ウ　義務教育終了段階での自立・自律を目指した指導

⑶　地域と学校の双方向の連携・協働による子供の学びと地域づくりを推進する。

ア　ＳＤＧｓを視点とした、海と人の共生や地域創生の学び
イ　地域の伝統・文化の継承による郷土愛の育成
ウ　地域コミュニティの中核としての役割

4　ビジョン

⑴　目指す学校像　「子供・保護者・教師の夢や希望にあふれる学校」

ア　学ぶ楽しさや分かる喜び、心や体の成長が実感できる学校
イ　保護者・地域から信頼され、地域とともに歩む学校
ウ　教師が情熱と使命感をもち、教育活動を進める学校
エ　教育上の環境が整い、安全・安心に生活できる学校

⑵　目指す子供像　「何事にも主体的に取り組む子供」

ア　育成すべき資質・能力を身に付けた子供
イ　絆づくりを進め、豊かな人間性・社会性を身に付けた子供
ウ　健康で安全に生活し、体力の向上に取り組む子供
エ　海に囲まれた粟島を深く理解し、ふるさと粟島を誇りに思う子供

⑶　目指す教職員像　「率先垂範・凡事徹底・プラスαを目指す教職員」

ア　主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導の充実を図る教職員
イ　細やかに見とり、子供の心に寄り添い、共に活動する教職員
ウ　保護者や地域と信頼関係で繋がり、地域の特色を理解して生かす教職員
エ　子供の心身の健康づくりや居場所づくり、環境整備に努める教職員

5　学校教育目標

・自ら進んで学習する子ども　　（知）
・思いやりを持ち助け合う子ども　（徳）
・めあてを持って体を鍛える子ども（体）

6　重点実践事項

知・徳・体・地域連携の重点事項をそれぞれ一つに絞り、成果を上げて全体に波及させる、「一点突破、全面展開」の考えで進める。

⑴　子供の学習改善を図る。
　単元計画表とルーブリックの活用による粟島浦小中学習改善・授業改善モデルの確立。

⑵　自己理解と他者理解の双方向を通じて自他の良さを理解し合うとともに、自己肯定感や自己有用感を高め、集団の中での自己存在感を感じさせる。
　下学年では「ほめあい活動」を、上学年及び中学校では「クラスミーティング」や「哲学対話」等の取組をとおして、信頼関係を深める。

⑶　基礎体力の向上を図る。
　年間を通じた体づくりやラジオ体操等の取組。

⑷　未来を切り拓く力や郷土愛の育成を図る。
　地域資源の活用や外部講師の招聘・施設訪問による学びの推進。

7　教師の基本的な姿勢　「教育は信頼関係の上に成り立つ」

(1)　個を伸ばす教育を実践する。

ア　一人一人を大切にし、子供の心の揺れや不安に即時対応する。
　→登下校時の見取り

イ　「できるようになりたい」「分かるようになりたい」という子供の願いを大切にする。
　→タブレット端末等、ＩＣＴ機器を活用した新たな学び、記憶を呼び起こすツールに位置付けたテスト、学習懇談等

ウ　生徒指導の実践上の視点（※生徒指導提要の改訂）を生かした教育活動を行う。
　→①自己存在感の感受　②共感的な人間関係の育成　③自己決定の場の提供
　④安全・安心な風土の醸成

(2)　「率先垂範」を旨とし、教育公務員としての誇りと自覚をもつ。

ア　時・場・目的に応じた行動をとり、子供の行動模範となる。
　→授業の開始・終了、下校等の時間を守る

イ　適切な言葉遣い、身だしなみ、人としてのマナー等に配慮する。
　→来校者の出迎えと見送り、電話の応対等

ウ　法令を遵守し、非違行為は決して起こさない。

(3)　全職員が協働の意識をもち、チームとなって組織的な対応をする。

ア　「報・連・相」と「確認」を徹底し、情報の共有化を図る。
　→抱え込まない　悪い報告ほど早く行う　互いに声を掛け合って確認する

イ　スピードが誠意である。チームによる迅速・適切な初期対応を心掛ける。
　→生徒指導に関わることは週をまたがない、保護者への丁寧な説明を行う

ウ　教師一人一人が自らの専門性を発揮し、連携・分担して教育活動を行う。

(4)　環境の整備・美化・安全管理を徹底する。

ア　日々の安全点検や清掃活動をとおして、安心・安全な環境を作る。
　→転倒・落下の危険性予見、心を込めた清掃活動

イ　環境の変化に気を配り、維持や美化に努める。

ウ　危機管理マニュアルの見直し・改善を図り、周知徹底を図る。
　→感染症予防対策の徹底

エ　新潟県防災教育プログラムを活用した防災教育の推進
　→避難訓練とのタイアップ

(5)　「集中と選択」を実践し、自らの働き方を見直す。

ア　「子供のための活動」となっているかを考え、整理・統合・削減する。

イ　「現状維持は衰退」新しいアイディアを考えて、積極的に取り組む。
　→いじめや命に関わることでなければ、担当判断での挑戦もあり

ウ　時間外勤務一月45時間以内、一年360時間以内を目指す。また、年休一年15日以上の取得を図る。

(6)　2023年度目標　「10％の改革　70％の手応え　100％の自信」で取り組む教職員集団。